

6. 北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
家計 動向 関連	良く なっている	-	-	-	
	やや良く なっている	百貨店（売場担当）	お客様の様子	・下取りキャンペーンや謝恩クーポンの反応がよい。	
		家電量販店（経営者）	販売量の動き	・売上高の前年比の推移は、大きく落ち込んだ4月で底打ちした状況である。	
		乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・3月や4月と比べ受注量の前年比は改善傾向を示しているものの、新型ハイブリッド車以外の既販車の受注は振るわず、全体の底上げにはまだなっていない。しかし、新型ハイブリッド車の受注は、納期は6か月以上かかるほど絶好調の状態である。	
		乗用車販売店（経理担当）	来客数の動き	・エコカー減税や補助金制度のおかげでハイブリッド車の受注が好調に推移している。対応するスタッフの士気も高まり活気が出ている。しかし、他の既販車にも好影響を及ぼしているかという疑問が残る。	
		乗用車販売店（経理担当）	販売量の動き	・環境対応促進税制の恩典普及効果もあり、新型ハイブリッド車を中心とした受注が前年を大きく上回っている。需要回復の兆しが出てきた。	
		都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・円高による海外客の減少や新型インフルエンザの影響もあり宿泊者数は大幅に減少しているものの、それ以外は前年比増加傾向である。	
		タクシー運転手	販売量の動き	・売上の減少率が半分になった。	
		通信会社（役員）	販売量の動き	・夏季賞与の支給時期に合わせ販促キャンペーンを展開しているが、エコポイント導入によるデジタルテレビの売行き好調の流れを受けて、目標を上回るペースでデジタル契約への新規加入及びアナログ契約からのデジタル契約への移行が進んでいる。	
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・3か月前と比較しても、前年と比較しても、住宅の販売量は増加している。	
		住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・平成20年9月ごろから21年3月までと比較して客の動きが活発になってきたが、反面、同業他社との競争が激しくなっている。	
	変わらない		商店街（代表者）	来客数の動き	・全国的にセールが前倒しされ、早くスタートしているが盛り上がりには欠ける。消費者の財布のひもが固く変化がない。
			一般小売店〔精肉〕（店長）	来客数の動き	・定額給付金の効果があるとは感じられない。また、中元商戦でも買い回り需要が伸びているとは思われない。
			一般小売店〔書籍〕（従業員）	販売量の動き	・客の商品購入に対する意識が厳しく、同じ商品ならば、価格の安いもの、付加価値のあるものを選ぶなど、店舗により販売数の違いが大きくなっている。
			百貨店（売場主任）	それ以外	・持ち直し感がみられるが、貴金属等高額商品にはまだ回復基調が見えない。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・食料品や家庭雑貨は前年を超える基調になっているが、ファッション関連は前年比9割台にとどまっている。消費者の巣ごもり現象の購買行動が顕著になっている。	
		百貨店（営業担当）	来客数の動き	・来客数は依然低迷したままで、復調の兆しを感じられない。	
		スーパー（店長）	単価の動き	・引き続き、来客数・買上点数は前年を超えているが、1品単価が前年比10%程度低下している状況に変わりはない。	
		スーパー（店長）	単価の動き	・客単価は前年比100円以上低下している。1品単価の低下、買上点数の低下が引き続き見られる。	
		スーパー（店長）	お客様の様子	・客の購買単価は相変わらず200～300円低下している。また、中元や父の日商戦でも需要が低迷している。	
		スーパー（店長）	販売量の動き	・買上点数が減少し無駄な物は買い控える傾向が顕著に出ている。1円でもお買い得な商品に手が出ており、昨年からの消費底冷え感は継続している。	
	衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・現状としては最悪の状況からは脱出しているが、前年比ではまだ悪い状況が続いている。		
	衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・来客数の増加はみられるものの、購買には結びついておらず、買上率、客単価ともに低下している。		

	衣料品専門店 (総括)	販売量の動き	・来客数は前年並みに戻っているが、客単価が下がったままであり、同じ傾向が続いている。
	乗用車販売店 (経営者)	お客様の様子	・輸入車は代替サイクルが長いので13年超所有する客は多いが、希望の輸入エコカーが無い。ハイブリッド車効果で代替を希望して来店の客が増えてきたが、落胆して帰る場面が多くなった。
	自動車備品販売店 (従業員)	販売量の動き	・通期で前年比売上高は伸びているものの、高速道路料金引下げの恩恵も考えられ、物販としては大きな変動は無い。
	その他専門店 [酒](経営者)	販売量の動き	・売上が全く上がらず、資金繰りが厳しい状況がかなり前から続いている。
	その他専門店 [医薬品](営業担当)	販売量の動き	・既存店で比較すると、来客数に変化はないが、依然として買上点数が0.1点減少しているため、売上げが3%減少している状況に変わりが無い。
	高級レストラン (スタッフ)	販売量の動き	・夜の集客は法人利用の激減で苦戦が続くが、昼は単価を下げ客数を伸ばし何とか前年並みに推移してきた。しかし、ここに来て昼の集客が突然悪化してきた。週末の高速道路料金引下げの悪影響か、平日の観光客に全く勢いが無い。
	一般レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・4月以降、前年比はほぼ同水準で推移しており下げ止まり感はあるものの、回復には至っていない。ディナータイムから深夜は低調な状態が続いている。
	スナック(経営者)	来客数の動き	・ここ数か月の売上は前年比2割減で推移している。製造業の客の中には、休日が週に3、4日あるところやボーナスもわずかな額や無しといったところもあり、依然厳しい状況が続いている。
	観光型旅館(経営者)	来客数の動き	・新型インフルエンザの風評被害で一時はキャンセルばかりであったが、月中頃から客が戻っている。
	都市型ホテル (スタッフ)	単価の動き	・宿泊、レストラン共に販売価格を下げたことで、利用客数は前年を上回ったが、収益の向上にはつながらなかった。
	旅行代理店(従業員)	お客様の様子	・なかなか夏休み需要が活発にならない。ボーナス減額と新型インフルエンザの影響なのか外出に対して積極的ではなく、安近短志向が顕著で、旅行代理店を通さず自分で手配できる需要が多い。
	タクシー運転手	来客数の動き	・月初めに大規模な祭りがあり、その前後は観光客が多く、終日忙しかった。しかし、梅雨に入っても雨の日は少なく昼夜ともタクシーの利用は少ない。週末でも夜の人出は少なかった。
	通信会社(職員)	お客様の様子	・新規の加入状況は、相変わらず消極的で大きな変化が無い。
	通信会社(営業担当)	販売量の動き	・携帯電話に新商品が発売されたが、旧機種も値下がりせず、新端末も安くないため一部の客が購入しているだけで全体的に販売台数は伸びていない。
	競輪場(職員)	単価の動き	・1日当りの入場者数や1日当りの売上はやや増加傾向だが、1人当たりの購買額は横ばいとなっている。
	その他レジャー施設(職員)	販売量の動き	・新規入会者数が安定化傾向にある。
	美容室(経営者)	来客数の動き	・来客数が依然として前年を下回り続けている。集客のためサービス価格の引下げをする店も出始めており、営業環境は厳しいままである。
やや悪くなっている	スーパー(総務担当)	単価の動き	・商品1点当りの単価が前年より5%程度低下し、売上が前年を下回るようになった。競合する各社ではナショナルブランド商品の特売が増加し、対抗上当社でも特売商品の売価を下げている。それでも買上点数、客数とも伸びない。
	スーパー(営業担当)	販売量の動き	・消費者の必要でないものは買わない姿勢がより一層強くなり、特売を実施しても売上が上がらない。
	コンビニ(経営者)	それ以外	・タスポ効果は終わり、来客数は微減となっている。さらに、景気悪化等により客単価の下落が大きい。
	コンビニ(経営者)	単価の動き	・都市部での先行販売を受けて、105円惣菜などのオリジナル商品が多く導入され、客単価の低下に拍車がかかっている。

		観光型旅館（スタッフ）	来客数の動き	・総売上は前年比76%、宿泊者数は同76%、宿泊単価は同100%となり、人数減が売上に直接影響を与えた。単価が維持されたのは団体客が減少した影響による。個人客のウエイトが高まったため、売店の売り上げは前年比81%と宿泊関連よりは落ち込みが少なかった。
		旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・相変わらず暗いニュースがまん延しているものの、新型インフルエンザの話が下火になり旅行気分が少し出てきている様子である。
		住宅販売会社（従業員）	それ以外	・客に関する情報入手量が月を追って減少傾向にあり、歯止めがきかない。現在ある展示場のあり方や建て替えなど費用負担が収益面に響いてきた。
		住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・不況で雇用問題などが不安定なため、新築住宅の販売展示会を開いても来客数の減少が目立つ。特に高額物件の場合には影響が生じている。
悪くなっている		商店街（代表者）	来客数の動き	・例年かなりの人出がある百貨店の特招会が、今年は今までは考えられなかったほどの人出の少なさだった。お中元商戦も始まっているが、従来のように休日に駐車場待ちの車による渋滞が発生するほどの活気は今のところ見受けられない。
		一般小売店〔鮮魚〕（従業員）	販売量の動き	・例年6月は結婚式でホテルや結婚式場にはぎわうものだが、今年は式が減っている。
		一般小売店〔事務用品〕（営業担当）	お客様の様子	・もともとこの時期は物が動かない状態ではあるが、客に元気が無いように感じられる。
		コンビニ（店長）	それ以外	・近隣に大手コンビニチェーン店が進出し、その影響が大きく売上が激減した。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・半期に一度のセール開催日が前倒しになっている。毎回初日に客が集中するが、今年は大きな集中が見られず、商品の買上も慎重である。
		住関連専門店（店長）	単価の動き	・セールのすれば来客数は増えるが単価はかなり下がり、一方、何もしない場合、来客数は減少する。客もかなり慎重な買物姿勢となっている。給料面でも減ったという人は聞くが、増えた人はほとんどいないような状況である。
		テーマパーク（職員）	来客数の動き	・景気の急速な減退により、法人企業団体客の利用が前年比2割以上の減少となった。また、新型インフルエンザの影響により、団体客、海外からの観光客が5割近い減少となった。個人客は前年並みに推移するが、全体として前年比2割を超える減少となっている。
企業動向関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・車両関係は在庫調整が一段落し、実需による生産が見込まれている。また、衣料関係は、秋冬物の機能性素材が使われた実用衣料のみ生産ラインに乗っている。
		化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・取引先の状況から受注単価はまだ厳しいものがあるものの、受注量が増加している。
		電気機械器具製造業（経理担当）	取引先の様子	・新製品を市場に出す状況にはなっていないものの、新製品開発はかなり進んでいる。
	税理士（所長）	取引先の様子	・取引先の月次決算をみると、前年ほどの勢いはまだ無いものの、3、4月より5、6月の決算は生産関連業種で活発になっている。	
変わらない		繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注については数量・単価とも厳しい状況が続いており、先行きも不透明のまま、変化の兆しが見えない。
		プラスチック製品製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・住宅以外分野では動きが出ているが、住宅建材を主力としているので相変わらず動きが鈍い。
		一般機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・欧米市場からの受注も少なく、また国内市場の受注はゼロに近い状況が続いている。
		精密機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・既存商品については、受注量自体は少なくなっているものの、新商品の提案・投入により、総受注量としては何とか確保している。

	輸送業（配車担当）	取引先の様子	・リーマンショック以来物量が落ち込み、さらに荷主の生産調整もうまくいっていないようで、荷動きが悪くなっている。
	輸送業（配車担当）	受注量や販売量の動き	・荷動きは悪いままでなかなか良くならないが、以前より悪くもならない。
	金融業（融資担当）	取引先の様子	・客の受注動向については、下げ止まったとの声は聞かれるものの、さらに上向いたとの判断をしているところは少ない。
	不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・不動産の購入者がいないと言う声が聞かれる。
	新聞販売店〔広告〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・売上も折込枚数も前年比マイナスの状況は変わらない。
	司法書士	取引先の様子	・個人住宅以外の不動産の動きが、ほとんど無い。
やや悪くなっている	食料品製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・物量ベースで前年比10%程度の落込みがみられるとともに、商品構成が低価格帯へ移行しており、厳しさが増している。
	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・4月から6月は新年度が始まったばかりで、例年のことながら公共工事の発注が少ない。作業員を直接雇用している当社にとって彼らの給料をまかなう現場が非常に少なく、月次決算は赤字続きであった。
	通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・なかなか受注量が伸びない。経営が順調な企業でも、買い控えが続いている。
悪くなっている	建設業（総務担当）	それ以外	・民間建築工事の見積案件はやや増加傾向にあるものの、設備投資の抑制や先送りが続いている。建築工事の減少から依然として厳しい受注環境が続いている。
雇用関連	良くなっている	-	-
	やや良くなっている	-	-
	変わらない	-	-
	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・依然として派遣需要は低迷している。一方で、派遣募集したところ1名に対し10名の応募があった。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・県内に大手コンビニエンスストアが進出し、小売業の動きが活発化している。雇用に関しても、サービス業では少しずつだが回復傾向が見られる一方、製造業は変わらず冷え込んでいる。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は、全体では前年比34%の減少となった。繊維工業で増加が見られるものの、一般機械、電気機械では同85%の減少、食料品飲食等が同43%の減少、医療福祉が同41%減少、建設業で同25%の減少となった。新規求職者では前年比15%の増加となったが、増加率はやや落ちている。
	民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・依然として人材紹介・派遣ともに求人依頼が低迷したままで、増員の気配が全くない。
	学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・全体的に学生からの内定報告が少なく、企業側が採用については慎重になっている様子がうかがわれる。
やや悪くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・4月以降も依然として新たな求人数は少ない。また、景気回復の兆しが全く見えないため、今後の非正規社員の契約終了も予定されている。
	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・求人する会社の数が以前よりは緩やかではあるが減っている。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・求人広告の出稿量は前年比4割にとどまった。
	職業安定所（職員）	求職者数の動き	・求職者の増加が顕著であり、特に、事業主都合離職者が前年比3倍増となっている。
悪くなっている	-	-	-